

手作り絵本で園児に交通安全

読み聞かせをする学生たち
名古屋市瑞穂区汐路町2丁目の旭幼稚園

名古屋の短大生ら読み聞かせ

名古屋女子大学短期大学部保育学科(名古屋市瑞穂区)の2年生4人が30日、交通安全を呼びかける自作の絵本を旭幼稚園(同区)の園児約100人に読み聞かせた。園児たちは、4人の声に耳を傾け、絵本の世界に引き込まれていた。

絵本作りのきっかけは、昨年、同学科が区役所から「区のマスコットキャラクター『みずほっぺ』を取り上げた作品を」と依頼されたこと。1年生約170人が班ごとに絵本制作に取り組み、中間菜月さん(20)らの「いつもみてるよ みずほっぺ」など4作が優秀作品に選ばれた。

「いつも」のストーリー

は、お使いに出かけた主人公がみずほっぺから信号の渡り方を学ぶというもの。題名は、みずほっぺが双眼鏡で主人公を見守っている姿からつけた。学生たちは、忙しい時期は夜9時ごろまで学校に残って、色塗りなどを進めた。

昨秋、「いつも」が代表として約200冊製本され、区内の幼稚園や保育園、市内21カ所の図書館に納められたという。

4人は幼稚園や保育園への就職が決まっている。坪井智美さん(19)は「これからはみずほっぺ、子どもたちに読んであげたいな」と話す。

(松浦祥子)

